

Men's PREPPY

男のヘア&ビューティをつくるプロフェッショナルマガジン

Men's Hair & Beauty Trend Magazine for Professional
[メンズプレッピー]

5

2016 MAY



書き込むだけで「自分」がわかる!
PB

パーソナルブランディング
スタート
BOOK

パーソナルブランディングってなんだ? / 【技術・発信・個性】メンズ強化で売れっ子になる!

ARTISM
RYO

I am Brand
特集 売れる「私」のつくり方。

プロフェッショナルの
偏愛道具

feat.
scissors
#007

photo: Kazuki Sano text: Men's PREPPY

Items :

Cosmo Smith / YS CONVEX 7.0

最高級の鋼「日立安来鋼 ATS 314」を使用し、職人の手によってシザーアーが作られる。柳の葉のような曲線で、2枚の刃がプロペラのように重なっているのでキレイに切ることができる。



「ハサミに要求するのは繊細な切れ味ですね」
やさしく、ゆっくりとそう話す『銀座マツナガ』のオーナー・松永さんは、現在75歳。今でも毎日お店に立ち、1ヵ月に170人のお客様を担当する。

「切れ味がいいハサミの条件は、抵抗が少ないと、開閉だけの力で切れることが、いつまでも切れることがあります」

10年前から愛用する『コスモ・スマート』のシザーアーは、1000人のカットをしても切れ味が落ちないという代物。その切れ味もさることながら、お客様から「その音がいいんだよな」と開閉時の音を褒められることもしばしば。手に持つて、耳で聞

いて、指で刃先をなで、シャキッとしたシザーアーの音を聞く。その仕草と表情に、道具への愛情が伝わってくる。

「ハサミに要求するのは繊細な切れ味ですね」
やさしく、ゆっくりとそう話す『銀座マツナガ』のオーナー・松永さんは、現在75歳。今でも毎日お店に立ち、1ヵ月に170人のお客様を担当する。

最後に、音の違いについて尋ねてみると、「なんとなく、この音がいいんですね」と答えてくれた。
なんとなく——それは、世間一般的な意味合いでではなく、技術と経験に基づく言葉。その感覚がわかるまで、どれだけ多くの時間と労力、愛情が必要なのだろう。

今日もそんなシザーアーの音が、日常

Owner :
銀座 マツナガ
松永巳喜男

まつながみきお。『銀座マツナガ』代表。「41年2月10日生まれ。「1000回開閉して1回切れなかっただけでも、下手だと思われる。切れ味というものはそういう世界ですね」



セニング2丁（手前）と使用頻度が高い7インチシザー（右から2番目）。7.25インチシザー（右）は、髪質が硬い人に使う。